

毎日、小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生は1時間以上

「新聞を読んで考える能力」を身に付けよう

－ 1日1新聞記事切り抜きのすすめ－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：開倫塾では、新聞を読んで考えることを奨励しているようですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。毎日、小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生は1時間以上「新聞を読んで考える能力」を、大学に進学するまでに身に付けることをおすすめしています。

Q：なぜ、「大学に進学するまでに」なのですか。

A：開倫塾の塾生の皆様の大半は、高校を卒業後、大学や短期大学、専門学校など、所謂(いわゆる)「高等教育機関」に進学なさいます。高校卒業後に大半の皆様が進学なさる大学での教育や研究は、学生に「自己学習能力」が身に付いていることを前提にしてなされます。したがって、「自分で学習する能力」が身に付いてはじめて、大学での教育や研究に耐えられます。「新聞を読んで考える能力」は、大学での「自分で学習する能力」の一つです。

大学入学までに身に付けておくべき「基礎学力」と同様に、大学入学までに身に付けておくべき「自己学習能力」の一つとして「新聞を読んで考える能力」は大切です。

Q：「大学生は余り新聞を読まない」と言われていますが……。

A：全部の大学生が余り新聞を読まないのではなく、熱心に読む大学生が極端に減ってきました。現代の世界や日本に起こっている毎日の出来事をかなり正確に伝えてくれる日本や世界の新聞は、「人類の英知」を集めた「人類の宝物」であると思います。「人類の発展」にとってかけがえのない新聞が毎日家庭にまで配達されて、簡単に読めるのに、大学生でありながら余り熱心にお読みにならないのは、ダイヤモンドが目の前にゴロゴロ落ちているのに拾わないのと同じで、余りにも「もったいない」と思えます。

大学生に「新聞を毎日読んで考える能力」が身に付いていない理由は、大学に進学するまでに「新聞を読んで考える能力」が身に付いていなかったためであります。

そこで、毎日、小学生は20分以上、中学生は40分以上、高校生は1時間以上新聞を読んで考えようという運動を、開倫塾では行っているのです。

Q：開倫塾は、大学進学後のことまで考えているのですね。

A：その通りです。皆様は折角(せっかく)大学にまで進学なさって勉強するチャンスがあるのですから、充実した、意味のある勉強をして頂きたい。大学でどのような専門分野をお選びになっても、

新聞を毎日丹念(たんねん)になめるように読み、現代社会の抱える問題を直視することは、必要不可欠です。

大学を卒業して社会に出てからも、新聞を読んで考えることは、現代に生きる社会人にとって欠くことのできない能力であります。そこで、社会に出た後のことも考え、今から少しずつ「新聞を読んで考える能力」を身に付けておくことを強くおすすめいたします。これは「能力」の一つですから、意識して身に付けようとしなければ身に付きません。「能力」の一つであることもよく覚えておいてくださいね。

Q : 「1日1新聞記事切り抜きのすすめ」とは、どのようにすることですか。

A : 「気になる記事」や「心に残る記事」があったら、保護者の方の許しを得て、「毎日1新聞記事を切り抜く」ことをおすすめします。

日付と新聞名を書いて、ノート(スクラップブック)に貼(は)ったり、お気に入りの箱に入れて保存。何回も何十回も同じ記事を繰り返し読む。できれば、大きな声を出してゆっくり読んでみる。そうすると、ジワーと世の中が広がってきますよ。

勉強する意味や生きている意味、生きる喜びが少しずつわかってくるのが、切り抜いた記事を繰り返し声に出して読み、それらの記事を参考にしながら「自分の力でものごとを深く考える」時であると私は思います。

是非、気軽に新聞の切り抜きをしてみてください。

— 御参考 —

私が「切り抜いた記事」を、開倫塾のホームページの「林明夫」のコーナーで紹介させて頂いておりますので御覧ください。また、私が読んだ本の中で「ここは」と思うところを書き抜いた「書き抜き読書ノート」も、同じホームページで紹介させて頂いております。併せて御覧頂ければ幸いです。

秋の夜長は、新聞や雑誌、本に親しみ、気に入ったものは、切り抜いたり書き抜いたりして、深くものごとを考える上での宝物として大切にしていきたいと思います。

— 2006年9月20日記 —

— 塾長紹介 —

宇都宮大学大学院情報工学研究科、非常勤講師。
大学コンソーシアムとちぎ、研究員。
社団法人経済同友会(東京)、幹事。
NPO 社会起業委員会副委員長。